

河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究

ー日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の 2025 年度活動報告ー

A report on the development of exchange platform for information sharing and collaboration
toward river restoration: Activities of the Japan River Restoration Network in 2025

自然環境グループ／企画グループ 主任研究員 和田 彰
審 議 役 土屋 信行
水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 阿 部 充
水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 北 澤 史
水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 佐藤 充人
自然環境グループ 主任研究員 白尾 豪宏
自然環境グループ 研 究 員 森本 洋一

1. はじめに

「日本河川・流域再生ネットワーク (Japan River Restoration Network : JRRN)」は、2006 年 11 月に日本・中国・韓国の三か国が設立した「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本の窓口組織として設立され、設立当初より当研究所が事務局を務めている。

本稿では、2025 年度に当研究所が JRRN 事務局の運営を通じて実施した川づくりに関わる情報共有・発信の充実、担い手育成に向けた普及啓発及び国際連携の取組みについて報告する。

2. 2025 年度の JRRN 活動内容

2-1 川づくりに関わる情報共有・発信の充実

国内外の川づくりに関するニュース、行事、新刊書、施策等の最新情報を、ウェブサイト、facebook、Instagram 等の SNS 及び隔月発行 JRRN ニュースレターなどの情報媒体を通じて広く社会に発信した。また、国内外関係機関から提供された各種情報の共有や、毎年春に実施する「桜のある水辺風景」写真公募などを通じて、川づくりの魅力や鮮度ある関連情報に接し、川づくりの担い手を繋げる情報共有基盤の充実に取り組んだ。

※JRRN ウェブサイト：

<http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN facebook：

<https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN Instagram：

<https://www.instagram.com/jrrn01/>

2-2 川づくりの担い手の育成に向けた普及啓発 や協働～小さな自然再生の普及促進～

2014 年より水辺の小さな自然再生の全国への普及に取り組んでおり、2025 年度は以下に示す全 4 回の「小さな自然再生」現地研修会を開催した（表－1）。

表－1 2025 年度に開催した現地研修会

回	上段：開催地（開催日） / 下段：共催団体（協力団体）
28	静岡県富士宮市・芝川（10/21開催）
	NPO法人ホールアース自然学校 （芝川で小さな自然再生を楽しむ有志の会）
29	静岡県静岡市清水区・庵原川（10/5開催）
	いはらの川再生PJ会 （静岡県静岡土木事務所、東海大学海洋学部水棲環境研究会、横砂自治会、静岡市環境局環境共生課）
30	福井県三方上中郡若狭町・はす川流域（11/3開催）
	三方五湖自然再生協議会 （福井県、若狭町、日本野鳥の会福井県、三方五湖ラムサールクラブ）
31	滋賀県内を流れる琵琶湖流入河川（12/6開催）
	（犬上川、愛知川、野洲川、家棟川）
	「小さな自然再生」研究会 （滋賀県立大学環境科学部、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

（1）第 28 回現地研修会 in 静岡県・芝川

『環境教育プログラムとしての小さな自然再生』を体験してみよう！』をテーマに、小さな自然再生活動を通じた水辺の生態系保全と共に、その活動の中に見い出せるさまざまな環境教育プログラムを試行しながら、「芝川のためにできること・芝川ででき

ること」を参加者とともにアイデアを深めた。

(2) 第29回現地研修会 in 静岡県・庵原川

「石倉カゴでつながる地域連携による多自然鰻川づくり」をテーマに、石倉かごを護岸材料としたニホンウナギ等の生育環境保全など小さな自然再生の取り組みを、子ども達、市民、行政、企業等を巻き込み、さらなる流域への展開や他の河川への横展開を図ることを目標に、参加者みんなで石倉かご調査を体験し、また河川環境の見方や自然再生の進め方を専門家より座学で学び、今後の活動に向けたアイデアを交換した。

(3) 第30回現地研修会 in 福井県・はす川等

「小さな自然再生で学ぶサケやアユの遡上環境改善」をテーマに、三方五湖自然再生協議会（自然護岸再生部会）が三方五湖周辺河川での自然再生に向けて小さな自然再生を活用した多様な水辺環境の創出や魚類遡上環境の改善などを打ち出す中、はす川流域において地域で小さな自然再生を進めていくためのアイデアやヒントを現地も巡りながら参加者と学んだ。

(4) 第31回現地研修会 in 滋賀県・琵琶湖流域

「滋賀県内での小さな自然再生の取り組みを学ぶ」をテーマに、河川環境の場づくりや手づくり魚道の現地を専門家の案内で巡り、他地域での展開を念頭に、技術や進め方等のノウハウを参加者とともに学んだ。



写真-1 2025年度に開催した現地研修会の様子

2-3 川づくりの国際的な技術交流

ARRN 主催『第21回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』及び ARRN 理事会に相当する「第19回 ARRN 運営会議」を2025年9月8日（月）にオーストラリア国ブリスベン市において第26回国際河川シンポジウムの分科会として開催した。

両行事では、日中韓の川づくりの最新知見の共有を行うとともに、アジアの技術交流と更なる連携に向け

た審議を行った。



写真-2 ARRN 国際フォーラム及び運営会議の様子

3. おわりに

JRRN によるこれまでの国内外活動と、2022年7月に当研究所内に設立された「リバプロサポートセンター」の活動内容の多くが重複することから、両団体の取り組みを最適化することで JRRN 及び ARRN の国内外活動をより効果的に展開していくための検討を進めてきた。

この結果、任意団体として取組んできた JRRN の国内外活動を当研究所が継承して今後も展開していくこと、それに伴い JRRN の定款及び理事会を廃止することが JRRN 理事会で決議された。

JRRN 国内外活動の当研究所への継承に伴い、2025年度（令和7年度）末をもって JRRN 会員制度を廃止するとともに、JRRN ウェブサイト内の主要コンテンツは以下のウェブサイトに移動し、2026年（令和8年）4月以降に現ウェブサイトや SNS を廃止することとなった。

◆ JRRN : <https://www.rfc.or.jp/jrrn.html>

◆ ARRN : <https://www.rfc.or.jp/arrn.html>

これまでの JRRN の諸活動は、会員をはじめとする国内外連携機関との協働で成り立ち、また小さな自然再生の普及促進活動は、（公財）河川財団の河川基金の助成を受け、「小さな自然再生」研究会や自治体等との協働で実施してきた。これまでの JRRN 活動に対する多大なるご支援に御礼申し上げるとともに、引き続き、当研究所が継承する活動へのご支援・ご協力をお願い致します。